

3-1 マルクスが新しくやったこと

「ところで、僕のことだが、現代社会における諸階級の存在にせよ、諸階級相互間の闘争にせよ、それを発見した功績は僕のものではない。僕よりもずっと前に、ブルジョア歴史家たちはこの階級闘争の歴史的な発展を、そしてブルジョア経済学者たちは諸階級の経済学的な解剖を記述している。僕が新しくやったのは、次のことを論証することであった。

1. 諸階級の存在はただ生産の特定の歴史的諸発展段階に結びつけられているだけだということ。2. 階級闘争は必然的にプロレタリアートの独裁に導くということ。3. この独裁そのものは、ただ、いっさいの階級の廃止と無階級社会とへの通過点をなすにすぎないということ。……」

⑤-[137]P255-257の下線部（ヴァイデマイヤーあてのマルクスの手紙 1852. 3. 5）